

辰野町議会第8回議会報告会概要（全体会編）

実施期日 平成27年11月13日

実施場所 辰野町役場第6会議室

出席者 町民57名 議員14名 合計71名

司会進行 宇治議会運営委員長

- 1、 開会挨拶 成瀬副議長（実行委員長）
- 2、 主催者挨拶 宮下議長
- 3、 6月・9月定例会等活動報告
 - 1) 総務産業常任委員会 定例会審査状況・活動報告
報告者 根橋総務産業委員長
 - 2) 福祉教育常任委員会 定例会審査状況・活動報告
報告者 堀内福祉教育委員長
 - 3) 議会広報委員会 活動報告
報告者 垣内広報委員長
 - 4) 議員行政視察報告
根橋総務産業委員長
- 4、 報告に関する質疑の内容

「意見」 1

6月の陳情で「安保法」関連3件の陳情書の扱いで一本化し意見書提出となった経緯や扱いについて

・根橋委員長

3件について基本的な内容が同趣旨のため、一括審査し採決は個別に行った。
また、3つの陳情書の趣旨を踏まえて、本会議に議員発議として提案し本議会では全員賛成にて可決され、辰野町議会として衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、防衛大臣宛意見書を提出した。

「意見」 2

議会だより等見ても、町民の意見に対し議会の声が見えてこない。
有権者（町民）は個々の人を選んでいるのであり、議員個々の意見が見えるようにしてもらいたい。

・宮下議長

議会だよりのページ数に限りがあり、個人の意見まで現状載せていない。

本会議、委員会とも傍聴できる仕組みになっており、多数の皆さんの傍聴を御願
いしたい。

・垣内広報委員長

現在意見が割れており、判断に苦慮している。委員会は載せず、本会議について
は、載せるべく検討している。

「意見」 3

両委員会より報告されている、町長への要望事項について具体的な返答が見えな
い。

・宮下議長・垣内委員長

本議会の席上答弁を受けている。

一括町側でまとめ、提示する。報告は12月末までとする。(確認事項)

「意見」 4

9月は決算、3月は予算、に関する議会と聞くが、議会の関わりや機能について

・宮下議長

9月は、前年度の決算等が主体となり、各事業に関するチェックや現場の確認等
実施し「認定」する。3月は、町側より提出された新年度予算について、内容を
チェックし提案や要望を行なう等重要な議会となっている。

「意見（要望）」 5

先般の議会一般質問の中で川島小学校の問題について、川島地区の総意で廃校に
まとまっているように報じられたが、決して総意でないことを、町民皆さんにお
伝えしたい。

5、分科会での意見交換内容

(次頁から掲載)

6、閉会

総務産業常任委員会 分科会

《テーマ》 辰野町の産業・観光について

19:30~20:25 辰野町役場 第6会議室

司会進行：岩田議員 記録：熊谷議員

●あいさつ・趣旨及び概要説明 根橋委員長

☆ 意見交換内容 ☆

《意見1》

1番心配なのは、ホタルの減少。ホタル育成について専門家に相談するべきだ。

・委員長

委員会の中での認識も同じである。天候による影響だけではないのではないのか。信大農学部など専門知識を持っておられる機関に相談すべきとの提言を決算審査の中で行っている。

・議長

勝野先生から指導を受けてきた生物クラブの2名の方がホタル育成に携わってきたが、その方々も離れてしまったことがホタル減少に影響していると思う。

・宇治

ほたる祭り中のJR利用者は、10%程度とのことだがこのことを含めトータル的に祭りを盛り上げることを検討すべき。また、ホタル1匹育てるのにカワニナ70匹が必要とのことだが、そのためにはどのようにすべきか調査研究が必要だ。

・山寺

ホタルが増えれば観望客数が増えると以前より考えてきた。また、公園入場料として集まるホタル育成資金がほとんど童謡公園の樹木管理に使われてしまい、ホタル増殖に使われていないことが問題だ。

・向山

発生数のカウント方法は、夜8時半ころ役場職員の経験者が一定の方法で行っているが、ここ数年5万匹を割っているのは深刻だ。

・熊谷

ほたる祭りは、辰野町の看板であるから、ホタル発生数の減少は心配だ。

《意見2》

川島小のPTA関係者だが、多くの方が何らかの形でほたる祭りに係られるイベント制が必要だ。

《質問1》

カワニナの増殖が可能か、育成指導者エキスパートを見つけ出すことが必要と思うが、どうか。

・向山

役場内に「ほたるを育てる会というボランティアの会があり、ホタル水路の改修のとき、カワニナとホタルの幼虫の引越しを行ったが、その時感じたのはカワニナは多かったが、幼虫は少なかった。勝野先生、野口先生の研究成果でカワニナを増やすことは出来ているが、幼虫増殖の研究が必要と思われる。

《意見3》

町民全体でほたる祭りを盛り上げるという考えから離れてきている。たとえば総踊りにしても年々連が減少してきている。

・宇治

数年前にバスの補助金が廃止されてから、参加取りやめの区が出てきたが区としてでなく、安協や奉仕団、JAなどの団体がJR利用で参加している。また、通年形の観光行事を実施し、通年で賑やかにしていくという考えになってきている。

・委員長

(ほたる祭りのまとめとして) ホタル増殖について専門家に依頼するにしても予算が必要なので、予算獲得にむけて活動していきたい。祭りのやり方については今日のご意見を実行委員会に伝え、企画部門の中で検討してもらいたい。

《質問2》

町政における観光産業の位置づけは、どうなっているか。また、文化財保存は地元の教育委員会まかせなのか。

・委員長

前町長は、観光立町と称して観光振興を進めようとしていた。今は、役場内に観光室を設置して推進している。また町観光協会が色々な取り組みを行っており、最近では地元特産品を観光協会が認定するようなことも進めている。観光ルートの開発では、上伊那広域や北部3町村の観光協議会が設置され推進されている。文化財と観光のリンクという視点では進められていない。

・司会

地方創生型として進められているのが「信州シルクロード」を核とした広域観光事業で、岡谷と連携して進められている。

・委員長

もう1点付け加えると、辰野、岡谷、塩尻の3市町で「塩嶺王城ライン」の観光ルートが開発が進められている。

《意見4》

町の財政は、基金取り崩しなどで厳しい状態にある。次回の報告会で町の財政について取り上げてほしい。

・議長

町の財政が厳しいことは十分認識しており、予算審査などで適切に対応していきたい。ふるさと納税の額が伸びてきているので返礼品の工夫などで更なる増加を進めたい。

閉 会（宇治）

貴重なご意見を数多く頂いたので今後の活動に生かしていきたい。以上で今報告会を閉会する。

福祉教育常任委員会 分科会

《テーマ》 地域医療について

主旨：辰野病院のあり方、第一・川島診療所等について

19：30～20：40 辰野町役場 第2会議室

司会進行：篠平議員 記録：瀬戸議員

- あいさつ：堀内委員長
- テーマ等趣旨及び概要説明：小澤議員

☆ 意見交換内容 ☆

◆辰野病院の果たすべき役割について

《意見1》

辰野病院に掛かった事がない。安心して掛かるには地元には病院は必要だが、良い医師がいないと受診してくれない。

《意見2》

良い病院にしたい。みんなが掛からないとダメ。”町立辰野病院を支援する会「きずな」のボランティアは100人いる。案内・花壇の手入れ・植木の剪定等やると、医師も顔を出してくれる。我々が一生懸命やると、医師もやる気になってくれる。大勢の患者さんに来て欲しい。

・委員長

2万人規模の町での病院経営は難しい。以前、「町は覚悟があるのか」と言われたと聞く。信大・諏訪日赤・伊那中央病院との連携が大切。黒字になるには10年かかるのではといわれている。医師一人減ると売り上げがガクッと落ちる。みんなで支えることが大切。しかしあまり受診者が多いと医療費がかかってしまう。公立病院、個人医院、それぞれの役割に応じて、医師も多忙の中で頑張ってくれている。辰野出身の医師に声をかけ、良い医師が一人でも増えれば患者も増える。

《意見3》

今年6月、自分の入院でお世話になった。内科の中でも医師はそれぞれ専門分野があるようだ。担当医は親切な先生で、専門でない処は他の先生の意見を聞いて治療していただき、安心できた。「このままでは透析患者になってしまうよ」と言われたが、専門の先生の意見を取り入れてくれたことで、現在健康状態は良くなった。辰野病院には良い先生がおられると思う。

《意見4》

病院事務に携わっていた。医療には良い先生が必要。地方の医療機関は医師不足になってしまっている。どこも経営は苦しい。常勤医師も半分以下になっている。2年前より公的病院は苦慮していると思う。以前は赤字でも公立病院は必要といわれていたが、現在は、赤字は認められない時代になった。公立病院が無くなるのはさみしいが、運営形態を変えて経営して行く事も考えないといけないと思う。両小野がそうだ。現在、整形外科受診者が両小野診療所にまわって来ている。小野では患者が増えている。一つの改革例として考えるべき。

・委員

議会の中でも検討して行かなくてはならないことと考えている。以前、辰野病院の厚生連へ経営譲渡の話があったが、今後、見直していくことが大切と思う。

《意見5》

辰野病院の医師は16人から6人になった。1人やめればつぶれるんじゃないかと6人で頑張ってきた。今回、堀内先生がみえてどうにかやっている、以前は全科あった、里帰り出産もできていた。今では、伊那中央でも運が良ければ出産できるといった状況。少子化が止まらない原因ではないか。

開業医についても若い医師が来ない。古村先生・東野先生が亡くなり6医院7人で開業している状況だ。その内、後期高齢者は何人いるのか。僕も高齢者。開業医にはベッドがない、毎日1~2人入院の必要な患者が出る。伊那中央・諏訪日赤は空きベッドが無い状況が続いている。辰野病院が最後の砦だ。しかしこれ以上は入院患者を受け入れられない状況。医師が倒れてしまうかもしれない。

開業医は行政の仕事もやっている。学校医・会議・保育所や小学校の健康診断を行っている。ひとり倒れたらやっていけない。開業医も増やしてほしい。町出身の医師・医学生50人はいるが誰も帰ってこない。早いうちに医師を増やさないと町から医療が消える。また、医師確保を一生懸命考えてくれることはありがたい。

・委員

議会でも意見を言っているが特効薬がない。

《意見6》

医師の息子が帰ってくる。とても迷っていた。アメリカへも留学した経験があり、帰ってくることに不安だったが「俺は辰野町で育った、辰野町が大好きだ」と言っている。医師会も若返り元気が出るかな。

・・・会場拍手喝采！よかった、うれしい、ありがたい等の声・・・

《意見7》

医者はお金だけではない。高い理念を持って医者を目指す人もいる。評判の良い医者のもとには町外からも患者は来る。どうリクルートするかが大切。赤字でも自分たちでやって行かなければならない。高くても名医と言われるような医者連れてきて、病院が有名になると良い。町出身の医師等50人の中には地域医療等を考える医師もいるはず。赤字でも良いので高い理念を持った医者連れてきてほしい。

・委員

私もそう思うが、全町民が赤字でも良いというわけではないし、町にも投資の限界がある。町民総意の中での検討をする時が来ている。2万人規模の町での病院経営について県より改革プラン策定の指摘を受けている。協力の体制作りが必要。

・委員

住民の中でも赤字でも良いとの声もある。伊那中央病院も黒字と言っているが一般会計から繰り入れている。

◆第一・川島診療所について

《意見①》

現在どの程度まで検討されているのか。

・委員

地域限定でアンケートをとっている、結果は今後出てくる。町内3か所（羽北・川島・町民会館）で説明会を実施。アンケートは958枚出し、回収は394枚で集計中。

《意見②》

私は、診療所は利用してないが、デマンドバスを利用し、辰野病院へ送迎して、効率良くしたらどうか。診療所を縮小しても住民に負担はないのではないかな。

・委員

アンケート結果を待って話し合うことになっている。選択肢の一つとして、住民サービスに繋がるようとり組み、困らない状況の一つの手として行きたい。アンケートの結果が出ておらず不確定。両診療所のあり方について、現在検討は始めているが、選択肢としては有効だと思う。

・委員

川島は定期バスがありデマンドバスは使えない

《意見③》

デマンドバス利用に制限があるなら変えていかなければならないと思うが。

・委員長

広域に使えるのは良い。どうしたら医療が充実するか真剣に考えて行かなくてはならない。デマンドバスも自宅まで来てくれない。システムを変えていく必要があると考えている。

・委員

デマンドを取り入れてから喜びの声もあり、病院利用が増えたのではないか。さらに利用できる様考えていきたい。

《意見④》

辰野病院はすぐ見てもらえるのか。以前「予約した人でないと受け付けられない」と言われた。平日は午前みの診療、時間外は受け付けてもらえない。

・委員長

時間外は専門医でないと対応できないと断ることがある。受診以前の対応に課題があると考える。事務長は改善していくと強い口調で言われた。

《意見⑤》

辰野病院では「専門外は診察できない・・・」と言われた。診療所なら決まった日に行けば時間がかからないで診てもらえる。診療に半日や1日かかるのでは”住み慣れた地域で安心した医療を”とは言えない。近くに診療所があった方が安心。地域性を持った医院として残してほしい。

《意見⑥》

アンケート回答数、地域のみなさんの意識が低いと思うが。

・委員長

アンケートは町で行ったが、回収率の低さ等については把握できていない。今回の調査について意識が低いのか3分の1程度の回答率。診療所について「どうしたいのか？」という事を住民と懇談していかなければならない。アンケート結果だけを見るのは危険だと思う。